

1. 計画コンセプト

1-3 ワークショップ報告書

ワークショップ全体のテーマ

「市民が使いたおせる施設を、みんなで一緒に考えよう」

実施スケジュール：令和4年6月～10月 会場：志木市民会館パルシティ 203・204・205 会議室及び志木市役所 市民ホール

参加者：市民23名（ABCグループに班分け） / ファシリテーター 学識2名 / サポーター 大学生8名 / 市職員3名 / 設計者 ※消毒と検温等により感染症対策を実施して開催

第1回ワークショップ - 私の志木 -

スケジュール

- ①参加者自己紹介
- ②どこまで進んでいるの？市民会館・体育館
- ③ワークショップ
- Q1. 志木市中心市街地のどこへ行きますか？
- Q2. どんな場所だったら来ますか？

方法

志木市広域図にQ1,2毎に2色の付箋を貼り、参加者にとっての志木市について議論した。

ファシリテーターによるまとめ抜粋

今回のワークショップでは、地図上に意見を貼り、場所的な散らばりを調べました。全体的な傾向として、志木駅の近くとパルシティの近くに二極化していて、宗岡などの地域には貼られた付箋が少ないと言えるでしょう。キーワードもたくさん出ていて、特に「子ども」に関する意見が多く挙げられました。「子どもの居場所」については長く議論が交わされており、志木市の中心街には意外と子どもの居場所がないのではないか？と問題提起されたように思います。他にも、飲み屋街のある市民会館といったユニークな案が出たり、若手が頑張っていた班があったりと良いワークショップになったと思います。



第2回ワークショップ - 3つの入口と街との関係を考えよう -

スケジュール

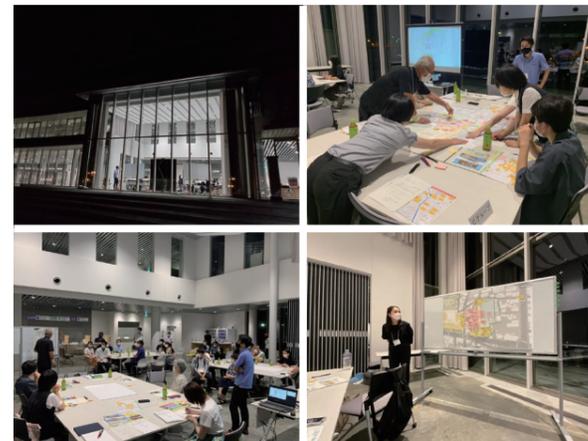
- ①新庁舎見学
- ②ワークショップ
- Q1. 3つの入口から街を見るとどんな関係がありますか？
- Q2. 3つの入口で、どういう出来事が起きますか？

方法

志木市役所の市民ホールでワークショップを行った。1階平面図兼配置図にQ1,2毎に2色の付箋をはり、3つの入り口について、各班タイトルをつけて発表した。

ファシリテーターによるまとめ抜粋

Aグループの「Open the door」やBグループの「青空〇〇」など、普段は屋内でやっているような活動を屋外とつなげようという意見がたくさん寄せられました。Cグループのタイトル「休憩したい」からは、休むことのできるようなスペースが意外と街中になく、公共施設に求められているということに気付かされました。



第3回ワークショップ - 新しいホールを使いこなそう！ -

スケジュール

- ①ワークショップ
- Q1. 平土間だからこそこできるホールイベントを考えよう
- Q2. 様々な立場になりきってイベント計画を立案しよう

方法

Q1では参加者それぞれが思いつくイベント、Q2ではロールプレイングを行いながら、実現可能性の高いイベントを1階平面図の拡大図を用いて各班でまとめた。

ファシリテーターによるまとめ抜粋

Q1では、自分たちが開催するイベントだけでなく、誰かを誘致してやってもらうイベントの提案も多かったです。Q2は、Aグループはホールを展示スペースとして捉えたときに、展示会を多彩なイベントと抱き合わせる企画の提案でした。展示会以外にも活用できる面白いアイデア企画だと思います。B・C共同グループは本来、演者と観客を入れるホールを演者だけに貸そうという発想が良かったですね。観客を入れると狭いホールも演者だけでなく広く使えるし周りのもっと広い施設やアリーナなどを活用したイベントもできるという面白い提案でした。



第4回ワークショップ - いろはみち・いろはひろばを使いこなそう -

スケジュール

- ①ワークショップ
- Q1. いろはみちの使い方を考えよう
- Q2. いろはひろばの使い方を考えよう

方法

第3回と同様に1階平面図の拡大図を使って、いろはみち、いろはひろばそれぞれに模型を置きながら使い方を立体的に考えた。

ファシリテーターによるまとめ抜粋

今回のワークショップでは目的があるようでないような公的な通路状の空間を、皆さんの発想でたくさんの魅力的な案ができました。また、施設を運営していく組織の中に市民発想のようなものがしっかりと入って、市民の皆さんも発言だけではなく、実際に体を動かして自分たちの公共施設をどんどん魅力的にしていくということの可能性を感じたワークショップでした。



第5回ワークショップ - 今までのワークショップを振り返ろう -

学生によるまとめでは、各回のワークショップで出した意見を分類し、第1回から第4回までの意見の推移を分析した。「運動できる場所」「子供・学生の居場所」「特別なイベントに使う場所」「目的のない場所」「皆と交流できる場所」「飲食できる場所」「建物や周辺を活かしたアイデア」「他にはない独創的なアイデア」といった計501件の多様な意見の出た活発なワークショップとなった。

参加者からは、「日常使いできる使いこなせそうな施設になりそう」「若い人が使える施設にしてほしい」「世代間の交流の機会となり楽しかった」などの感想を頂いた。



2. ワークショップ報告書

第1回ワークショップまとめ

志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本設計ワークショップ
2022年6月24日 第1回ワークショップ

Aグループ



Q1.「志木中心市街地のどこへ行きますか?」では、駅前・パルシティ周辺・川沿いでの活動が多く挙げられた。駅前では商業施設の利用、パルシティ周辺では学校行事やイベント、川沿いでは自然に親しむ活動が多いようだ。市民活動の中心であるパルシティの再整備には期待が寄せられた。大人たちから神社や公園での、子供の頃の思い出が多く挙げられた一方で、今の子供たちは遊べる場所がなくなってしまったとの意見も挙げられた。

Q2.「どんな場所だったら来ますか?」では、駐車場を望む声が強かった。Aグループは中心市街地から少し離れた地域に暮らす市民が多く、「駐車場のない市内の施設よりも、駐車場のある市外の施設の方が行きやすい」との声もあった。駐車場があることを前提に、駅前以外にも「子どもがのびのび遊べる場所」「みんなが集まる食事処」があれば行きたいとの声も挙げられた。

Bグループ



Q1.「志木中心市街地のどこへ行きますか?」では、駅前・パルシティ周辺・川沿いでの活動が多く挙げられた。Q1の志木中心市街地のどこに行くかというテーマについては、Bグループでは網羅的に挙げられた印象である。市民が主に利用する場所としては駅周辺、パルシティ周辺が多いが、居住地周辺も思い出の場所として意見が多く出た。その他には祭りや神社の利用も多い。

Q2.「どんな場所だったら来ますか?」というテーマでは多くの意見が挙げられ、盛り上がりを見せた。挙げられた意見は「アウトドアを楽しもう!」「文化を学ぼう!」「飲み屋でつなごう!」の3つのテーマに分類した。利用場所は志木駅とパルシティをつなぐ本町通り、新河岸川、柳瀬川周辺が多い。自然を活かしたアクティビティができる空間の要望が目立った。

Cグループ



Q1.「志木中心市街地のどこへ行きますか?」では、過去に訪れていた場所として旧志木駅舎や旧ダイエー(2013年閉店)を利用していた話、パルシティが市内音楽会の会場や旧足立町の町役場として利用されていた話、小学校についてや、柳瀬川や新河岸川での川遊びの話が寄せられた。現在よく行く場所としては、志木駅からパルシティ間のエリアで食事や買い物を、パルシティ及び隣接するいろは遊学館で展示や合唱の練習、PTA連合会や町内会など市民活動を行っていることが伺える。宝幢寺や敷島神社など寺社境内に花見やお祭りで訪れる、柳瀬川や新河岸川に花見や運動で訪れる市民が多い。

Q2.「どんな場所だったら来ますか?」では場所や空間に関する幅広い要望が挙げられ、「食事をする」「買い物をする」「遊ぶ」「多目的に利用する」「休憩する・立ち寄る」「体験する(文科系/スポーツ系)」に分類した。販売所が市内のJAで限られた時間の利用にとどまっている話や、スポーツ専門店のため市外のふじみ野まで行く話が寄せられた。また、美術協会と体育協会の参加者からはスポーツや文化活動への意見が多く挙げられた。

次第

- | | |
|-------------|---|
| 19:00~19:05 | 開会・あいさつ |
| 19:05~19:15 | 参加者自己紹介 |
| 19:15~19:35 | どこまで進んでいるの?市民会館・体育館
1)基本計画までの経緯
2)プロポーザル、基本設計案の説明
3)今日のプログラム・ワークショップとは |
| 19:35~20:35 | ワークショップ
1)Q1.志木市中心市街地のどこへ行きますか?
2)Q2.どんな場所だったら来ますか?
3)発表
4)市川先生によるまとめ |
| 20:35~20:40 | 閉会・次回ワークショップの予定 |



編集後記

地図上の意見を集約し、パルシティが市民活動の中心として愛されてきたのだと実感したことで、新しい市民会館への期待も高まりました。(中島)

Q1、Q2ともに、想像よりもたくさんの意見が出され、市民の皆さんの志木市への愛が感じられる第1回ワークショップになりました。(上村)

Q1では過去の記憶から現在まで幅広い意見が共有され、Q2では参加者の皆さんの普段からの活動的な様子が反映された意見であると感じました。(菅田)

市川先生によるまとめ

今回のワークショップでは、地図上に意見を貼り、場所的な散らばりを調べました。

全体的な傾向として、志木駅の近くとパルシティの近くに二極化していて、宗岡などの地域には貼られた付箋が少ないと言えるでしょう。キーワードもたくさん出ていて、特に「子ども」に関する意見が多く挙げられました。「子どもの居場所」については長く議論が交わされており、志木市の中心街には意外と子どもの居場所がないのではないかと問題提起されたように思います。他にも、飲み屋街のある市民会館といったユニークな案が出たり、若手が頑張っていた班があったりと良いワークショップになったと思います。今回の意見は石本建築事務所がしっかりと分析します。

次回からはより詳しく建物の話をしていきます。多目的ホールの使い方など、設計者の想定をよりリアルにするために、どんな活動をしたか意見をたくさん出してください。今回の感覚を忘れないように、次回もよろしくお願いします。

第2回ワークショップまとめ

志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本設計ワークショップ
2022年7月22日 第2回ワークショップ

Aグループ



「市民それぞれが自由に使える開かれた場所~Open the door~」として多彩な意見が寄せられた。
「江戸道側の静かな庭」では、犬の散歩や商工会など用事のついでに立ち寄りという意見が複数挙げられた。また、江戸道側に開かれたアリーナが子どもの遊び場になって欲しいという声も寄せられた。
「パルシティ通り側の開放的な庭」では、飲食店や買い物のついでに立ち寄り他、弓道場など体育館施設の利用後に休憩できる空間が望まれた。開放的な庭では、人が集うシンボルツリーや、雨が降っても子供を遊ばせる事のできる屋根などの工夫が欲しいとの意見が挙げられた。
また、パルシティ通り側から江戸道側に通り抜ける「通り道」としての利用も提示された。
「遊学館側のアトリウムとつながる入口」では、自習やお迎えなど小学校や遊学館での活動との連携が求められた一方、狭く交通量の多い車道への懸念も寄せられた。
入り口の他にも、「いろはひろば・座席を収納した平土間」への期待が非常に高く、椅子や机、大きなスクリーンなどを自由に配置して交流や学習の場にしたいという具体的な意見が多く挙げられた。

Bグループ



Bグループでは3つの入り口にそれぞれ「地域とのコミュニティ」「日常と非日常の境界線-気分を切り替える演出-」「いろは遊学館との関わり」とタイトルをつけ、多彩な意見が寄せられた。
「江戸道側の静かな庭」は、地元の人が日常的に利用することが想定され、人との交流や休憩の場所として緑豊かで静かな場所になってほしいという意見が挙げられた。
「パルシティ通り側の開放的な庭」では、日常と非日常の境界線をテーマに、志木のイメージを象徴するモニュメントの設置といった気分を切り替える演出がほしいという意見が挙げられた。また、この入口は市民だけでなく市外の人も多く利用することが想定され、両者をつなぐような入口になってほしいという声も寄せられた。
「遊学館側のアトリウムとつながる入口」では、図書館や遊学館での活動との連携を求める声が多く寄せられた。また、小学校の入口が近いので、安全性や小学生が入りやすいような空間になってほしいという声も挙がった。

Cグループ



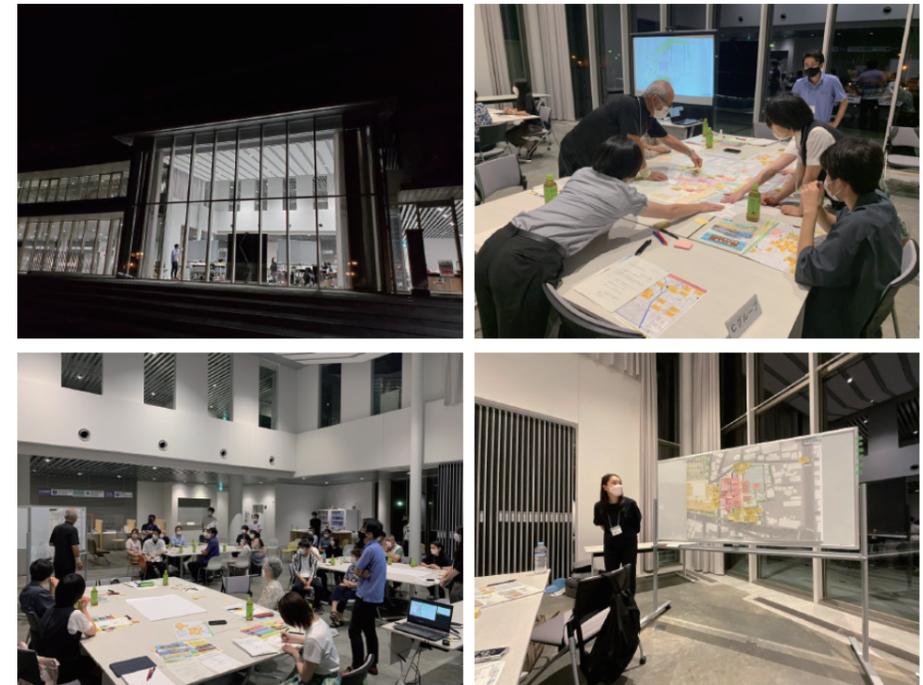
Cグループでは、ふらりと立ち寄れる場所を求める意見が多く、ほっと一息つける場所が求められていることがわかった。近くに立ち寄ったタイミングに使う場所から目当てにやって来る場所まで幅広い意見が出たが、それらはどれも日常的に使う場所であり、街中にふらりと使える場所が少ないということが再確認できた。
一息つく場所と言っても、「江戸道側の静かな庭」では落ち着いた空間が求められる一方、「パルシティ通り側の開放的な庭」では多くの人ができるオープンな空間が求められ、それぞれの場所で違った意見が出た。
「遊学館側のアトリウムとつながる入口」では子どもと親が使える空間や、志木小学校で行われる投票ついでの利用など、小学校と連携した意見が多く、実際に利用するイメージが浮かびやすい意見が多く出た。
また、入口部分だけでなく建物内部にも留まれるような空間を求める意見がいくつかあり、施設全体を日常的に使いたいという意見が多くあった。

市川先生によるまとめ

Aグループの「Open the door」やBグループの「青空〇〇」など、普段は屋内でやっているような活動を屋外とつなげようという意見がたくさん寄せられました。どちらもお題に対して良い答えばかりで、Bグループは3つのコンセプトがまとまり設計者の参考になったと思います。
Cグループのタイトル「休憩したい」からは、休むことのできるようなスペースが意外と街中になく、公共施設に求められているということに気付かされました。ワークショップでは意見の多数決ではなく、ハッと気付かされるような意見が出る事が大事です。今日ほどのグループも面白い意見がたくさん出たので、取りこぼさずしっかりとまとめます。
ワークショップ1回目は街中、2回目は施設の外構と、外から内に話が進んでいます。次回はホールの使い勝手など、施設内について市民の皆様が日常的にどういった使い方をしたいか市役所や設計者に伝える場になるので、想像を更に膨らませてもらえたらと思います。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

次第

- 18:30~18:45 開会・新庁舎見学
- 18:45~18:55 今日のプログラム
 - 1) 前回ワークショップの振り返り
 - 2) 今日のプログラム
- 18:55~19:55 ワークショップ
 - 1) 3つの入口と街との関係を考えよう
 - Q1.3つの入口から街を見るとどんな関係がありますか？
 - Q2.3つの入口で、どういう出来事が起きますか？
 - 2) 発表
 - 3) 市川先生によるまとめ
- 19:55~20:00 閉会・次回ワークショップの予定



編集後記

今回は設問がやや難しかったのですが、周辺とのつながりを踏まえた多彩な意見が活発に交わされ、とても良い雰囲気のワークショップになったように思います。(中島)
前回よりも参加者は少なかったものの、積極的に意見を交わし、B班らしい意見も多く出ました。①の道でユニークな活用法が出たことが印象的です。(上村)
難しい設問だったため意見が出るまでには時間がかかりましたが、実際にどう使いたいかというイメージが湧くと積極的な意見交換が行えたと思います。(柿沼)

第3回ワークショップまとめ

志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本設計ワークショップ
2022年8月24日 第3回ワークショップ

Aグループ



Q1「平土間だからこそ出来るホールイベントを考えよう」では、座席が収納され平土間の大空間となるホールの仕様に期待が高まり、収納機構の詳細やホールの大きさなどを確認しながら進められた。

パーティションを閉じた状態では、防音性や遮蔽性の高さを活かした声を出せるイベントや、音と光を活用するプロジェクションマッピング・アートアクアリウムなどの意見が挙げられた。パーティションを開いた状態ではハワイエや屋外空間とつながる広さを活かした立食パーティやバザーなどの案が出された。オリンピック競技となるダンス大会や志木市らしいカバルファンに向けたイベントなど、既存のホールのイメージにとらわれない多彩なイベントが提案された。

Q2「様々な立場になりきってイベント計画を立案しよう」では、バルシティからホールに開催場所が変わること施設使用料が高くなる美術協会展に、Q1で提案された多彩なイベントを掛け合わせることで集客力と収益性を高める計画を考えた。

美術展示に興味が無かった人々も呼び込むため、にぎわいがホールの外に伝わるようにする、展示に掛け合わせるイベントを日替わりにするなどの意見が挙げられたほか、収益性を上げるためスポンサー企業が商品の展示販売を行う、オークションで展示作品を販売するなど、持続的にイベントを成り立たせるための具体的な提案が多く交わされた。

次第

- 18:30~18:45 開会
1) 前回ワークショップの振り返り
2) 今日のプログラム
- 18:45~19:55 ワークショップ
1) 新しいホールを使いこなそう!
Q1. 平土間だからこそできるホールイベントを考えよう
Q2. 様々な立場になりきってイベント計画を立案しよう
2) 発表
3) 市川先生によるまとめ
- 19:55~20:00 閉会・次回ワークショップの予定

B+Cグループ



Q1「平土間だからこそできるホールイベントを考えよう」では、ホールの規模、想定される料金などの市民の疑問を解消した後に発表を行った。

発表や鑑賞の場としての利用から、サブアリーナやマイナースポーツ誘致などの競う場としての利用まで幅広く想定した意見が出た。

舞台設備を活かした意見では、観客に配信で観てもらおうことでホール全体を舞台として利用できるという意見が寄せられた。また、全国カップ展やカバルのファンミーティングなど、志木市のゆるキャラであるカバルをアピールしようという意見も挙げられた。

Q2「様々な立場になりきってイベント計画を立案しよう」では、舞台設備を活かせる点や、ホール全体を舞台として利用することで一般の舞台より広くできるという点を考慮し、動画配信ライブに決定した。

運営方法では、アリーナの利用会員は割引価格で視聴できるようにするなどの料金に関する意見や、プロジェクターで背景映像を映すなど演出方法まで広く意見された。

ホールの様子をアリーナで流すことで大人数で視聴できるのではないかと案や配信の視聴方法が分からない人に対するサポートを求める意見も寄せられた。



市川先生によるまとめ

Q1では、自分たちが開催するイベントだけでなく、誰かを誘致してやってもらうイベントの提案も多く、程よい大きさのホールを活かした面白い意見がいろいろ出たと思います。

Q2は2グループで違ったパターンが提案されました。Aグループはホールを展示スペースとして捉えたときに、展示会を多彩なイベントと抱き合わせることでこれまでと違った展示が生まれ、年間を通していろいろな毛色の企画ができるという提案でした。展示会以外にも活用できる面白いタイアップ企画だと思います。

Bグループは本来は演者と観客を入れるホールを演者だけに貸そうという発想のきっかけが良かったですね。観客を入れると狭いホールも演者だけに広く使えるし周りのもっと広い施設やアリーナなどを活用したイベントもできるという面白い提案でした。

発想を変えて考えてみることで可能性が広がりました。今回得られた本来目的とは少し違う施設利用方法の提案をもとに、将来の可能性をつぶさない可変性をもった建物を設計することが課題となったように思います。

今回は変わった趣向のワークショップでしたが、皆様のご協力でたくさんの良い意見が出て楽しい回になりました。あと2回のワークショップもどうぞ期待で、是非ご参加頂きたいと思います。本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

編集後記

利用者としてだけでなく運営者やスポンサーとしての視点で考えることで、これまでにない新たなホールの使い方やイベント計画を具体的に想像出来たように思います。新しいホールの特長を活かした楽しい意見が次々提案され、有意義なワークショップになりました。(中島)

ホールの規模や利用料金から想像を膨らませていき、多種多様な意見が出たのが印象的でした。ホールイベントの内容を具体的に詰めるにあたり集客・収益を増やすアイデア出しに難航しましたが、与えられた役割の目線でじっくり考えることが出来たと思います。(菅田)

第4回ワークショップまとめ

志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本設計ワークショップ
2022年9月14日 第4回ワークショップ

Aグループ



Aグループは、「いろはみち」は体を動かす活動的な空間、「いろはひろば」は展示や読書を楽しむ文化的な空間として意見を出し合った。

Q1.「いろはみちの使い方を考えよう」では、柱の間を用いた雲梯や、吹き抜けを使った巨大なブランコ、道を横断するネットなど、細長いいろはみちの特徴を活かし、子供から高齢者まで体を動かせる意見が多く挙げられた。床に迷路を描いたり川を流したりと独創的な意見の他、ホールとアリーナの間という立地から、両施設の利用者が交流する場としても期待が寄せられた。

Q2.「いろはひろばの使い方を考えよう」では、広い空間を活かした立体物の展示や、大きな本棚など、文化的な営みを目指す案が挙げられた。リサイクル本を持ち寄る、わいわい喋れる自習スペースなど、いろは遊学館との差別化も考えられた。屋外のキッチンカーと連携した飲食スペースや、子どもを遊ばせ保護者が見守る空間への意見も寄せられた。

Bグループ



Bグループでは、「いろはみち」はアリーナ・ホールを利用しない人でも訪れたいような賑やかな空間に、「いろはひろば」は人々が集まる場として意見を出し合った。

Q1「いろはみちの使い方を考えよう」では、吹き抜けを利用したボルダリングやバンジー、ランウェイなどアクティブに活動できる空間としての提案や、地元の小学生の絵を飾るなどの展示の場としての提案が寄せられた。また、通り抜けできることを活かし、横丁のような賑やかな空間にしたいという意見が挙げられた。

Q2「いろはひろばの使い方を考えよう」では、いろはみちと比べて集まる空間としての利用に焦点を当て、発表会やパーティ、待ち合わせ場所としての利用が提案された。また、いろは遊学館が近いことから、読み聞かせに利用する案も挙がった。

Cグループ



Cグループでは、「いろはみち」を長さを生かした歩いて楽しめる空間、「いろはひろば」をハワイエの機能やいろは遊学館との連続性を意識した空間として意見を出し合った。

Q1「いろはみちの使い方を考えよう」では、壁面を生かしたプロジェクター投影や、柱間の空間を生かした無人販売や展示場所としての提案が寄せられた。また、「みち」である長さを生かしお祭りの縁日や神輿が通る提案や、屋内ウォーキングの提案が寄せられた。

Q2「いろはひろばの使い方を考えよう」では、机や椅子を設置しカフェテリアの機能の提案や、学習・仕事スペース、スポーツ体験、有料のアリーナやホールに比べ気軽に市民の発表の場や立ち寄れる空間の提案が寄せられた。

市川先生によるまとめ

今回のWSでは目的があるようでないような公的な通路上の空間を、皆さんの発想でこれだけ魅力的な案ができました。これを実現させるのは大変な事ではありますが、不可能ではありません。
WSはあと1回となりましたが、今日出たような案を設計事務所の方々には是非、可能性として残すような工夫を設計の発想の中に活かしていただきたいと思います。
また、施設を運営していく組織の中に市民発想のようなものがしっかりと入って、市民の皆さんも発言だけではなく、実際に体を動かして自分たちの公共施設をどんどん魅力的にしていくということの可能性を感じたワークショップでした。
そういう将来が志木市で起こって、新しいものがここで生まれたら楽しいなと思いながら発表を聞かせていただきました。
本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

次第

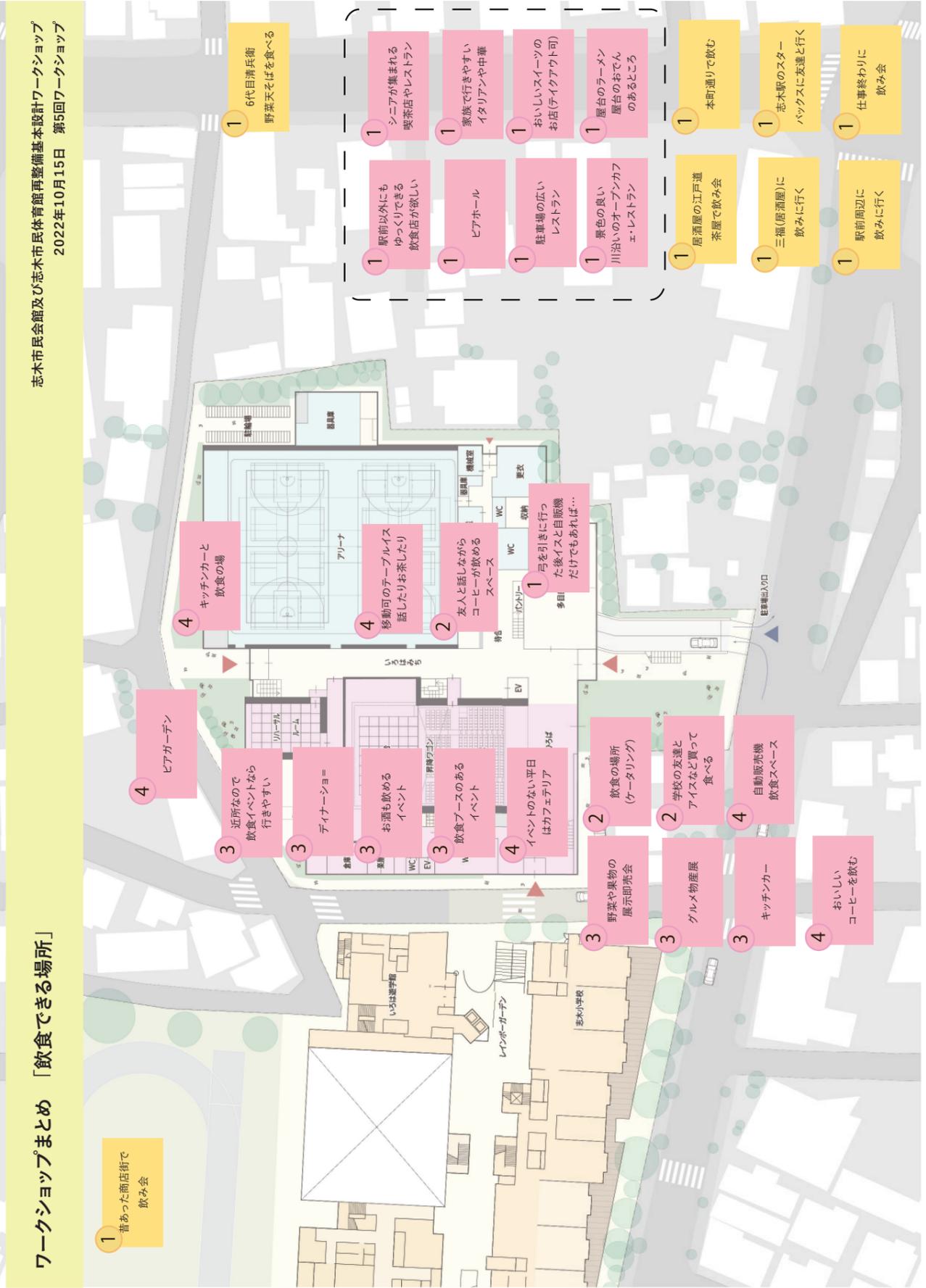
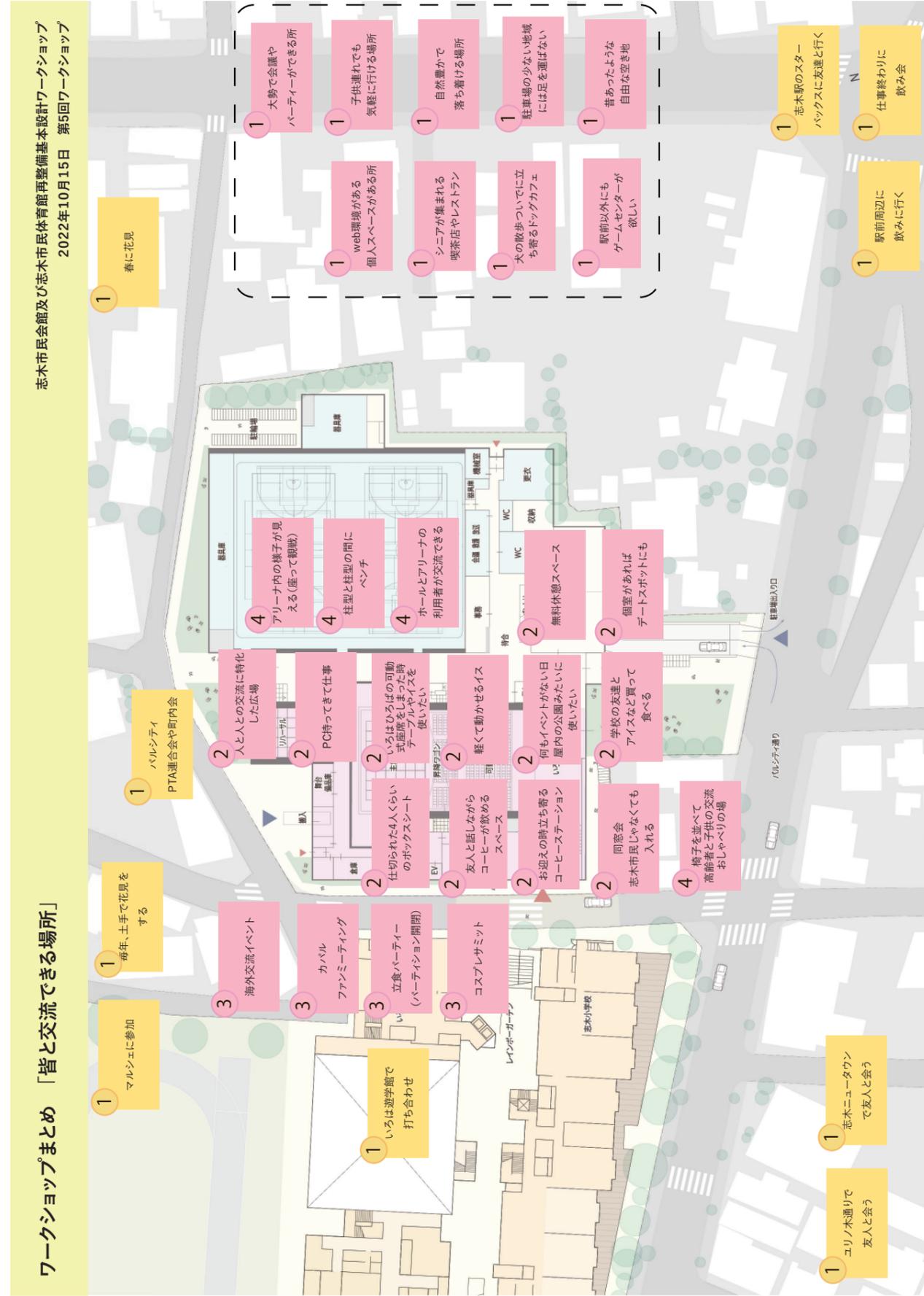
- 18:30~18:45 開会
1) 前回ワークショップの振り返り
2) 今日のプログラム
- 18:45~19:55 ワークショップ
1) いろはみち・いろはひろばを使いこなそう
Q1.いろはみちの使い方を考えよう
Q2.いろはひろばの使い方を考えよう
2) 発表
3) 市川先生によるまとめ
- 19:55~20:00 閉会・次回ワークショップの予定



編集後記

その場で模型作成する一風変わったワークショップでしたが、皆の意見や、ひろばの賑わいが立体的に可視化される楽しい回になったと思います。(中島)
これまでとは違うWS形式となりましたが、一人一人が意見を持ち寄り、楽しい空間が作れたと思います。(上村)
メンバーからの提案や意見を細かく付箋に起こし、模型に反映することができました。模型を設置しながら具体的なイメージが想起できたように思います。(菅田)

2. ワークショップ報告書



2. ワークショップ報告書

